

この大会は、地域のために自らの力を発揮し、創造的に生きる大人（中高年＝「創年」）が地域活性化のために活躍する「創年活動」の推進と地域活動のあり方を考えるとともに、広くコミュニティのあり方などを提唱し、「生涯学習まちづくり推進20周年のつどい」として開催します。

なお、本大会は全国生涯学習まちづくり協会が推奨する「創年運動」のひとつとして位置づけられ、西日本のモデル事業として開催するものです。

※「創年」とは、地域のために自らの力を発揮し、創造的に生きる大人のことです。

創年コミュニティ研究大会・筑後大会

生涯学習まちづくり推進20周年のつどい

平成26年2月22日（土）

サンコア(筑後市勤労者家庭支援施設)

11:00~12:30 オープニング交流会「日本人は魚を食べ」

12:00 受付

13:00 開会・記念式典

来賓祝辞 文部科学省 全国生涯学習市町村協議会（予定）

13:30 報告

全国生涯学習まちづくり研究会筑後支部

14:00 基調講演 「創年運動とコミュニティ再生への取り組み」

福留 強（聖徳大学名誉教授 生涯学習研究所長）

15:00 事例発表「コミュニティを創る取り組み」

「映画を創った天草の市民たち」 福田 智穂（映画「女たちの都～ワッゲンオッゲン～」企画者）

「市民活動が根付いた経済効果」 山内 庸子（霧島市隼人町/南風の会代表/嘉例川駅復活の仕掛け人）

「日本人は魚を食べ」 土井 克也（日本人は魚を食べプロジェクトリーダー）

16:20 討論「事例研究から考える」3つの発表の討論

参加者から1～2名が発言、質疑応答 福岡県宇美町長（全国生涯学習市町村協議会）

～17:00 （司会 福岡県教育委員会 南筑後教育事務所 社会教育室）



【基調講演】

講師：福留 強

国立社会教育研究所、文部省生涯学習局で長年にわたり、生涯学習の推進、社会教育の指導に携わる。

九州女子大学教授を経て、現在聖徳大学生涯学習研究所所長・名誉教授、全国生涯学習まちづくり協会理事長、

全国生涯学習市町村協議会世話人。生涯学習を通じた地域振興、まちづくりを指導。

著書「創年のすすめ」（ぎょうせい）、「もてなしの習慣」（悠雲舎）など。



【事例発表】

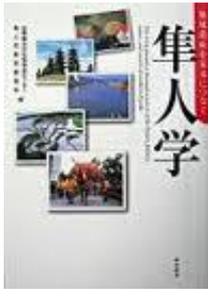
福田智穂(映画「女たちの都～ワッゲンオッゲン～」企画者)

熊本県天草市牛深。かつては豊富な漁獲量を誇り、豪華絢爛な花街が栄えた地。しかし今では漁獲量が減り、仕事も減り、さびれた衰退都市に……。そんな天草を舞台に、見終わった後に「よし、私もやらなきゃ！」と元気になる映画『女たちの都～ワッゲンオッゲン～』を企画する。



主催 筑後市 筑後市教育委員会 全国生涯学習まちづくり協会筑後支部

共催 全国生涯学習まちづくり協会 全国生涯学習市町村協議会 筑後郷土史研究会



【事例発表】

山内庸子(霧島市隼人町、南風の会代表)

無人駅「嘉例川駅」に列車を停車させ、地域の人々に駅弁を作らせ、駅弁日本一となる。それら地域づくりの仕掛人として積極的に活動を展開する。



【事例発表】

【オープニング交流会(11:00~12:30)プロデュース】

土井克也(日本人は魚を食べプロジェクトリーダー)

▽経歴 1964年(昭39)10月10日、大分市生まれ。

82年大分県立津久見高校を卒業。99年ポートラインサービス

を起こし、社長となる ▽趣味 仕事の後で海を見ながら仲間と飲む焼酎 ▽健康法 出張の折はエレベーター、エスカレーターは使わず階段を上げる ▽座右の銘 毎日ハイテンションで生きる



創年とは

「創年」とは、地域のために自らの力を発揮し、創造的に生きる大人(中高年)を呼びます。少子高齢社会における「創年」は、「老人」や「高齢者」とは呼ばず、地域の青少年とともに、生涯にわたって自分が輝き続けるよういきることを主張するものです。

私たちは、これまでの生き方を見直し、地域のために自らの力を発揮し、創造的に生きる大人(中高年)を「創年」と呼ぶことにしています。

子育てを終えた主婦たちや、リタイヤした時間的に余裕のある人々のように、人生をリフレッシュして、これからの生き方を探し、新しい自分づくりに挑戦しようとするのが「創年」です。

「創年」は、それぞれの世代に様々な課題を抱えていますが、それでも意味ある生き方をしたいと誰もが望んでいるのです。

創年活動とは

「創年」を主張することはどのような意義があるのでしょうか。多くの人々が「創年とは、いい言葉ですね。その意味については誰でも納得するものがあります」といいます。

創年の意義として次のような3つの視点があげられるのではないのでしょうか。

●生涯現役の視点

創年とは、いわば生涯にわたって現役であり続けるということです。創年であるためには、常に周囲のためになろうという夢があるものです。それはできるだけ現役として活動し続けることです。いわば生涯現役を標榜することと同じです。

●生涯学習の視点

そのためには常に、自らを磨き、自己を高めつづけることが必要です。それは「生涯学習」を実践することを意味しています。学びつづけその成果を活かし、ますます学習意欲を高めることなどは、生涯学習そのものといっても良いものです。

それはまた、生きがい対策にとっても大きな役割を果たすものと考えられます。学び続け地域に役立ち必要とされることによって、心身の活性化をもたらすものと言えるでしょう。これは人々にとって生きがいになるものと思われれます。

●地域の活性化の視点

創年は、一人一人が自己を高め、地域に自己の能力を生かすことです。それは生涯学習まちづくりの基本的な考え方です。創年の活動が活発化すれば、地域全体が活発化していることを表しています。